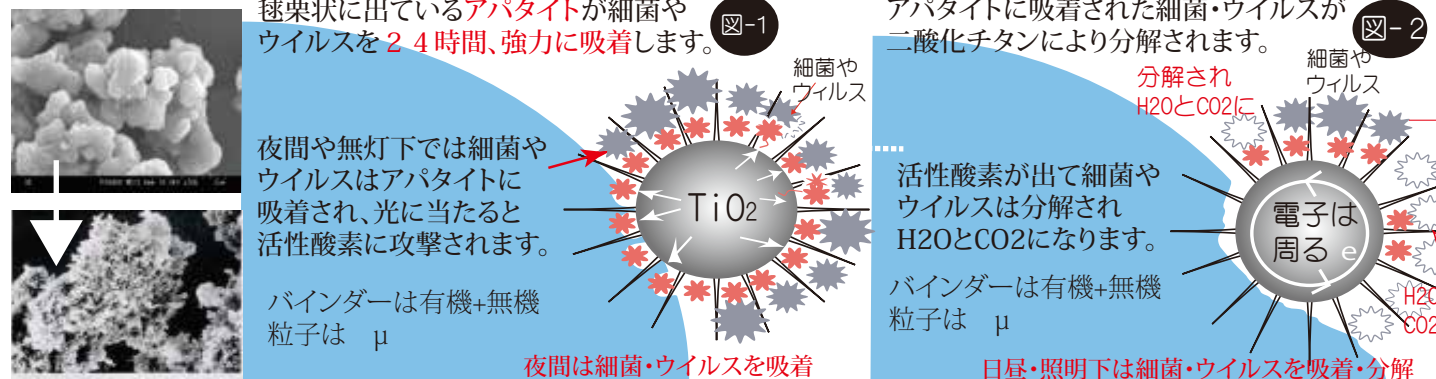


抗菌環境作り STEP-2 光触媒塗装

全ての灯りに反応する最強の細菌・ウイルスハンター

Faith Guard-in Attack



＜夜間は細菌・ウイルスを吸着し、昼間・灯りの下では吸着と分解を行い、24時間、細菌・ウイルスを水と二酸化炭素に＞

◆二酸化チタンとアパタイトは化学結合し、活性酸素が出てアパタイトに付着した細菌・ウイルスを水(H2O)と二酸化炭素(CO2)に分解・除去します。化学的に結合しないと分解出来ません。

◆紫外線が強い外部でも塗装面は活性酸素により、一部分解しますがアパタイトとバインダーは付着しています

2004年フッ化アパタイト被覆二酸化チタン光触媒の合成を(独)産業技術総合研究所もニュースリリースで報じました。

2004年1月 2004.1.30 1/2 ページ

産業技術総合研究所

What's new

●ポイント

- 世界で初めてフッ化アパタイトを被覆した二酸化チタン光触媒の合成に成功
- アパタイト被覆二酸化チタンの応用範囲をさらに大きく広げる新材料
- 耐熱性に優れており屋外など過酷な条件下での使用が可能

概要

独立行政法人 産業技術総合研究所(理事長 吉川 弘之)(以下「産総研」という)セラミックス研究部門(部門長 亀山 哲也)メノボラスセラミックス研究グループ長 野島 孝と株式会社トウメイ(社長 山下 謙二)(以下「トウメイ」という)専務取締役 刀根 知人は共同でフッ化アパタイトを被覆した二酸化チタン光触媒の合成及びその実用化に成功した。新開発のフッ化アパタイト被覆二酸化チタン光触媒は、先に開発したハイドロキシアパタイト被覆に比べ耐熱性を飛躍的に向上させたもので、耐熱面材により高機能な部品に利用が期待される。この成果が新聞等で発表された。

■吸着力をもつフッ化アパタイト被覆二酸化チタンの合成は難しく、合成できる企業は国内では現在まで当社のみです■

2011年3月の東日本大震災以降、省エネの普及に伴い、LEDにも対応できる光触媒が求められる時代になりました。

